

令和8年度

好学通信 (シラバス)

2年生 (63期生)

三綱領・五科目

敬愛 好学 自主

志操は高く品格ある青年生徒になり
易らにたす学道に専心せよ
共励切磋和して同するたがれ
自主自律 責任と定意せよ
積極敢進自ら運命を開拓せよ



鹿児島県立鹿児島中央高等学校

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	論理国語	2	共通	一斉	2	論理国語 (筑摩書房)	意味から学ぶ頻出漢字3000 (第一学習社)

目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考査等
	4月～6月	①	アイオワの玉葱(長田弘)	同じ母語を使う者同士ではなかなか見えてこない「ことば」の性質を、筆者の海外での経験から、ことばについての根源的な考察に結びつけている思考の過程を読み取る。			①前期中間考査
			本当は怖い「前提」の話(川添愛)	言語学の視点から、我々が何気なく使用している「前提」という概念を捉え直し、意識せぬ「前提」が我々のものの見方に及ぼす影響について理解する。			
	6月～8月	②	デジタル化される世界(オリヴィエ・レイ)	我々は日常的に示される「統計」を鵜呑みにしがちだが、それは数字を信じてしまう傾向を反映したものであるかもしれない。我々の認識の死角について考える。			②前期末考査
			人新世における人間(吉川浩満)	新しいことばの発明によって、世界の見え方が変わることがある。「人新世」という語がどのような視点を提示するのか、筆者の主張を読み取り、理解する。			
	9月～11月	③	異時代人の目(若桑みどり)	時代を隔てたが故に現代人に新鮮なヒントをもたらす生きた「知」となる過去の人々の思考の記録を読み、来たるべき未来にとって現代がどのような時代であるべきかを批評する。			③後期中間考査
			ファンタジー・ワールドの誕生(今福龍太)	さまざまな対象に対して新しい概念や切り口をもつ文章に接し、読み解く中で新たな視点を生み出し、世界を多面的に捉える姿勢を身に付ける。			
12月～2月	④	桜が創った「日本」(佐藤俊樹)	「人工と自然」を切り口として、日本における人間と桜の関係性について読み取り、「環境」とは何かについて、視点を反転させる論理の流れをつかむ。			④学年末考査	
		男の絆、女たちの沈黙(尹雄大)	普段は気づかぬ固定的な物の見方に支配されているがゆえに、固定的な人間関係が作られる。その事態をどのように乗り越えればよいのか、考える。				
3月	⑤	ビッグデータ時代の「生」の技法(柴田邦臣)	自分の経験を出発点に書かれた評論文を読み、現実生きる人々の具体的な姿から、固定的な立場にとどまらない、広い視野をもつことのへ大切さを理解する。			単元テスト	
定期考査	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。					
	予定範囲	前期中間	上記「学習内容」の①の範囲(休日課題・漢字を含む)				
		前期末	上記「学習内容」の②の範囲(休日課題・漢字を含む)				
		後期中間	上記「学習内容」の③の範囲(休日課題・漢字を含む)				
学年末		上記「学習内容」の④の範囲(休日課題・漢字を含む)					
実力考査	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。					
	予定範囲	4月	休日課題の問題集+漢字+実力問題				
		10月	休日課題の問題集+漢字+古文単語+実力問題				
1月		休日課題の問題集+漢字+古文単語+実力問題					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけている。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価基準	定期考査 小テスト	定期考査・単元テスト 小テスト 国語課題		ペアワークなどの取組 宿題(問題集・作文等) 小テスト			
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する			
学習の手引き	(1)予習…必ず語句の意味調べをする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書の丸写しではなく、主体的な読み書きの姿勢を持つこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間を確保して、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりと臨むこと。終了後の復習も時間を確保すること。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	文学国語	2	共通	一斉	2	文学国語(数研出版)	意味から学ぶ頻出漢字3000(第一学習社)

目標	1. 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深める。 2. 共感する力や想像力を伸ばし、創造的思考や伝え合う力を高める。 3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
----	--

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月～6月	①	山月記(中島敦)	<ul style="list-style-type: none"> 小説ならではの表現を学び、自らの語彙を豊かにする。 不思議な世界との遭遇を描いた小説を通して、人物の思想や心情を自らの言葉で合理的に説明する。
鍋セット(角田光代)			<ul style="list-style-type: none"> 具体的な描写を象徴的に把握し、「食」と「生きること」の関係を理解する。 情景描写が映し出す登場人物の心情を考察する。 	
6月～8月	②	ナイン(井上ひさし)	<ul style="list-style-type: none"> 完全に叙述されていない部分や、明言が避けられている部分があることによって多様な読みが可能になる場合に、本文に根拠を求めて必然性のある解釈をする。 	②前期末考查
		山椒魚(井伏鱒二)	<ul style="list-style-type: none"> 比喩表現を的確に理解し、ストーリー展開を把握する。 登場人物の関係を整理し、行動や内面の変化を理解する。 	
9月～11月	③	こころ(夏目漱石)	<ul style="list-style-type: none"> 視点人物の語りに耳を傾け、その立場に立って登場の心情や行動の意味を考える。 複数の解釈が可能な言葉や行為について、登場人物の立場や状況を踏まえて整理し、ストーリー展開を的確に把握する。 	③後期中間考查
		永訣の朝(宮澤賢治)	<ul style="list-style-type: none"> 一つの言葉に立ち止まり、じっくりと時間をかけてその意味を考える。 生徒自身がこの詩に学び、しっかりと言葉を発し受け止め、そうして向き合う人と深いコミュニケーションを築く。 	
12月～2月	④	物語のおわり(湊かなえ)	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物それぞれの置かれている状況や立場などの観点から比較・整理し、本文を正確に読む。 登場人物の行動や内面の変化を追い、作品の結末について自分の考えを表現する。 	④学年末考查
		文学のふるさと(坂口安吾)	<ul style="list-style-type: none"> 文学者自身による文学論を読み、内容に関する分析を行う。 	
3月	⑤	源氏物語(与謝野晶子 他)	<ul style="list-style-type: none"> 原文(古文)とともに現代語訳や翻案作品を読み比べ、表現の違いを味わう。 	⑤単元テスト

定期考查	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。
	予定範囲	前期中間 上記「学習内容」の①の範囲(休日課題・漢字を含む) 前期末 上記「学習内容」の②の範囲(休日課題・漢字を含む) 後期中間 上記「学習内容」の③の範囲(休日課題・漢字を含む) 学年末 上記「学習内容」の④の範囲(休日課題・漢字を含む)

実力考查	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。
	予定範囲	4月 休日課題の問題集+漢字+実力問題 10月 休日課題の問題集+漢字+古文単語+実力問題 1月 休日課題の問題集+漢字+古文単語+実力問題

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価基準	定期考查 小テスト	定期考查・単元テスト 小テスト 国語課題	ペアワークなどの取組 宿題(問題集・作文等) 個人・グループでの発表
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する

学習の手引き	(1)予習…必ず語句の意味調べをする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書の丸写しではなく、主体的な読み書きの姿勢を持つこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間をとって、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりと臨むこと。終了後の復習も時間を確保すること。
--------	--

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
国語	古典探究	文2 理1	文・理	一斉	2	『精選古典探究』 (大修館書店)	核心を学ぶ ベストスタイル 古文単語351(尚文出版)
目標	1. 社会生活に必要な知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深める。 2. 共感する力や想像力を伸ばし、先人の考え方に触れて自らの考えを広げたり深めたりする。 3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を育てる。						
学習計画	学習時期	単元名			学習目標		考査等
	4月～6月	(古文)説話 『十訓抄』『大江山いくのの道』 ① (漢文)故事・逸話 『呂氏春秋』『知音』 『歴代名画記』『画竜点睛』			・和歌を含んだ説話を、構成を的確に捉えながら読み取る。 ・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。		①前期中間考査
	6月～8月	(古文)歌物語 『大和物語』をばすて ② (漢文)史記 「鴻門の会」			・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方・感じ方・考え方を読み取る。 ・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。 ・登場人物の生き方を通して人間のあり方について考えを深める。		
	8月～10月	(古文)随筆 『枕草子』『宮に初めて参りたるころ』 ③ (漢文)史記Ⅰ 「項王の最期」			・表現の特色に注意しながら、随筆に表れている作者の考えを的確に捉える。 ・展開のおもしろさを味わいながら、漢文の読み方を確認する。 ・登場人物の生き方を通して人間のあり方について考えを深める。		②前期末考査
	10月～12月	(古文)日記 『更級日記』『源氏の五十余巻』 ④ (漢文)小説 「定伯売鬼」			・作品の背景を踏まえながら日記を読み、内容の理解を深める。 ・小説の展開に即して、内容を正確に読み取りながら、発想や表現の特色を理解する。		10月実力考査
	12月～3月	(古文)作り物語 『源氏物語』 「光源氏の誕生」 ⑤ (漢文)思想 「不忍人之心」(孟子)「人之性悪」(荀子)			・作り物語を多面的・多角的な視点から読み、作品についての理解を深める。 ・文章の構成や展開を理解し、さまざまなものの見方・考え方に触れる。		1月実力考査
		(古文)和歌・歌論 『新古今和歌集』『無名抄』『おもて歌』 ⑥			・論旨を的確に捉えながら歌論を読み、和歌の理解を深める。		④学年末考査
定期考査	出題方針	授業で取り扱った教材(教科書)の学習内容の理解度を計る。					
	予定範囲	前期中間	上記「学習内容」の①の範囲(休日課題の問題集、古典文法、古文単語、漢文句法を含む)				
		前期末	上記「学習内容」の②の範囲(休日課題の問題集、古典文法、古文単語、漢文句法を含む)				
		後期中間	上記「学習内容」の③の範囲(休日課題の問題集、古典文法、古文単語、漢文句法を含む)				
学年末		上記「学習内容」の④の範囲(休日課題の問題集、古典文法、古文単語、漢文句法を含む)					
実力考査	出題方針	主に実力問題と休日課題から出題する。					
	予定範囲	10月	休日課題の問題集、古典文法古文単語、漢文句法 + 実力問題				
		1月	休日課題の問題集、古典文法古文単語、漢文句法 + 実力問題				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	国語を通して、実社会に必要な知識や技能を身につけており、言語文化に親しみ、理解している。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
評価基準	定期考査・実力考査 宿題(問題集)		定期考査・実力考査 授業におけるペアワーク等 宿題(問題集)		授業におけるペアワーク等 宿題(問題集)、ノート 小テスト		
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		
学習の手引き	(1)予習…必ず語句の意味調べをする。 (2)授業…予習をもとに、自分が分からないことは特に重点的に聞くこと。板書や全訳の丸写しではなく、主体的な読み書きの姿勢をもつこと。疑問が解決しなかったら、その日の内に調べたり、質問したりして解決すること。 (3)復習…その日の授業の復習は、その日の内に10分でも時間をとって、確実にすること。小テストへの準備もすること。 (4)試験…ひとつひとつの試験に対して、日頃の取り組みと試験前の対策をしっかりと臨むこと。終了後の復習にも時間を確保すること。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
地歴	地理探究	文2 理2	選択	一斉	2	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE(帝国書院) サクシード地理(啓隆社) 新地理研究ノート(啓隆社) 地理10分間テスト(山川出版社)等

目標	<p>・現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。</p> <p>・地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。地球・地形の成り立ちや世界の気候などの自然環境そのものと、農業・工業など自然環境と人間生活との関係を把握し、さらに、具体的に様々な地域や国を取り上げて、地誌的にそれらを考察していく。</p> <p>・自分自身の住む地域や世界における諸課題やその解決策について、主体的かつ共働的に探究していく態度を養う。</p>
----	---

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月 5月 6月 7月 8月	第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1節 地形	<p>・世界の地形についての知識を、地形・気候と人間生活との関わり合いを具体的事例を通して細かく確認し定着化をはかる。</p> <p>・世界の気候について、成り立ちを考察し、それぞれの気候区の特徴と農業など人間生活への影響を考察する。</p> <p>・日本の地形・気候についての知識を、地形・気候と人間生活との関わり合いを具体的事例を通して細かく確認し定着化をはかる。</p> <p>・世界と日本の環境問題について、自然地形・気候・産業と関連させながら考察する。</p>	前期中間
	9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月	2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 世界の工業		<p>・世界と日本の農林水産業の生産と流通について、地形・気候と関連させながら、農業地域区分を通して考察する。</p> <p>・現代世界の農業の現状と課題および世界の中での日本の農業の課題を考察する。</p> <p>・世界や日本の食糧問題について考察する。</p> <p>・エネルギー・鉱産資源の生産と消費について、その分布を大観し、世界のエネルギー・鉱産資源の現状と課題および日本の資源問題を考察する。</p> <p>・世界の工業について、工業の発達過程や種類、立地とその変化、現状と課題を考察する。また、日本の工業の特徴と課題を考察する。</p>

定期考查	出題方針	<p>・授業、教科書、その他課題などから出題する。</p> <p>・100満点 50分間の試験</p>		
	予定範囲	前期中間	地図・地形	
		前期末	地形・気候	
		後期中間	気候・環境問題	
		学年末	農林水産業・資源・エネルギー	

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	地理に関わる諸事象に関して、地域の特質や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象について、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を獲得している。	地理にかかわる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題やその解決策について、主体的に探究しようとする態度で取り組んでいる。
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する

学習の手引き	<p>① 自宅では…【予習】教科書を読んで、学習内容を確認。【復習】オリジナルの学習ノートを作成し、学習内容を自分なりにまとめてみる。</p> <p>② 授業では…他の生徒と意見を出し合ったり、要点をまとめ、それを発表したりする活動を通じて理解を深める。</p> <p>③ 日常的に…ニュースを見たり、新聞を読んだりする習慣を身につけて、自分の身の回りの出来事などに関心や疑問を持つようになる。</p>
--------	---

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
地理 歴史	日本史 探究	2	文理 選択	一斉	2	詳説 日本史 (山川出版社)	新詳 日本史 (浜島書店) 詳説 日本史 授業用整理ノート (山川出版社) 新日本史研究ノート (啓隆社) 日本史重要語句 Check List (啓隆社)

目標	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。
----	--

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月	第1章 1 文化の始まり	①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	前期中間考查
5月	2 農耕社会の成立	①大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ②集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。		
6月	第2章 1 古墳文化の展開	①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	前期期末考查	
	2 飛鳥の朝廷	①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ②飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。		
7月	第3章 1 律令国家への道	①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。	10月実力考查	
	2 平城京の時代	①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。		
8月	3 律令国家の文化	①律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ②天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	後期中間考查	
	4 律令政治の変容	①平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ②東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。		
9月	第4章 1 摂関政治	①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの民間の貿易や交流が中心となったことをとらえる。	12月	
	2 国風文化	①大陸文化の消化と法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。		
10月	3 地方政治の展開と武士	①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとりて考察する。	1月実力考查	
	第5章 1 院政の始まり	①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。		
11月	2 院政と平氏政権	①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。	2月	
	第6章 1 鎌倉幕府の成立	①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。		
12月	2 武士の社会	①承久の乱にもとまう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ②武士の生活と地方支配を通して、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	3月	
	3 モンゴル襲来と幕府の衰退	①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意味を考察する。		
1月	4 鎌倉文化	①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ②伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。	後期期末考查	
	第7章 1 室町幕府の成立	①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。		
2月	2 幕府の衰退と庶民の台頭	①庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ②諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	3月	
	3 室町文化	①武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ②庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。		
3月	4 戦国大名の登場	①応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名が各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	後期期末考查	
	第8章 1 織豊政権	①大航海時代と呼ばれる世界的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。		
3月	2 桃山文化	①新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	後期期末考查	
	第9章 1 幕藩体制の成立	①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。		
3月	2 幕藩社会の構造	①幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ②被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。	後期期末考查	

定期考查	出題方針	・授業、教科書、その他課題などから出題する。 ・100満点 50分間の試験
	予定範囲	前期中間 第1章 1 文化の始まり～第2章 1 古墳文化の展開 前期末 第2章 2 飛鳥の朝廷～第4章 2 国風文化 後期中間 第4章 3 地方政治の展開と武士～第6章 4 鎌倉文化 学年末 第7章 1 室町幕府の成立～第9章 1 幕藩体制の成立

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、国家および社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する

学習の手引き	(1) 予習…教科書を熟読し、「詳説日本史 授業用整理ノート」の穴埋めを完成させる。 (2) 授業…授業中は集中して説明事項の内容を理解し、生徒同士で内容を説明したり、まとめたりする能力を身に付ける。 (3) 復習…「新日本史研究ノート」や「日本史重要語句 Check List」を活用して、知識の整理と定着を図る。
--------	--

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
地歴	世界史探究	2	文理共通	一斉	2	新詳世界史探究(帝国書院)	浜島書店「NEW・STAGE世界史詳覧」 山川出版社「世界史用語集」 浜島書店「総合マスター世界史」 啓隆社「世界史重要語句Check List」

目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。 文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培う。 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
----	--

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考査等
	4月	1部 世界史へのまなざし	序章 人類の登場と、文化・文明の形成過程を概観する。	前期中間考査
5月	2部1章 東アジアと中央ユーラシア ① 中華文明の形成 ② 秦漢帝国と東アジア	①中華文明の特徴を理解する。 ②中華王朝の特徴を理解する。 ③秦・漢時代に整えられた中華王朝の特徴について主体的に考察し、自分のことばで表現できる。		
6月	③ 中央ユーラシアと遊牧国家	①南アジアの歴史の変遷とそれぞれの国家の特徴を理解する。 ②東南アジアの歴史の変遷とそれぞれの国家の特徴を理解する。 ③南アジア・東南アジアの歴史的特質の共通点・相違点を考察できる。	前期末考査	
7月	2章 南アジアと東南アジア ①南アジアの文明と国家形成 ②東南アジアの社会と国家形成	①オリент文明の歴史の変遷と国家の特徴を理解する。 ②古代ギリシア・ローマの歴史の変遷と社会・国家・文化・思想について考察し、自分のことばで表現できる。 ③イランの歴史の変遷と特徴を理解し、ローマ帝国との違いを主体的に考察し、自分のことばで表現できる。 ④キリスト教の成立から発展の歴史の変遷を理解する。 ⑤イスラーム世界の思想・社会・国家・文化について理解する。		
8月	3章 西アジアと地中海周辺	①イスラーム帝国の歴史の変遷とユーラシア大陸に与えた影響について主体的に考察し、自分のことばで表現できる。 ②ヨーロッパの歴史の変遷と封建社会の特質について理解する。 ③唐崩壊後の東アジア史の歴史の変遷と特徴を理解する。 ④モンゴル帝国の特徴とユーラシア大陸に与えた影響について主体的に考察し、自分のことばで表現できる。	10月実力考査	
9月	①オリент文明の興亡 ②地中海周辺の国家形成			
10月	③地中海周辺と西アジアの帝国 ④ヨーロッパへ広がるキリスト教 ⑤イスラームの誕生	①明の国家の変遷と特徴を理解し、世界各地との結びつきの特徴について主体的に考察し、自分のことばで表現できる。 ②清明の国家の変遷と特徴を理解し、世界各地との結びつきの特徴について主体的に考察し、自分のことばで表現できる。 ③モンゴル帝国後の西アジア、南アジア諸国の歴史の変遷や特徴を理解する。	後期中間考査	
11月	3部1章 ユーラシア大交流圏の成立 ①イスラーム世界の拡大 ②ヨーロッパ封建社会の展開 ③東アジア諸地域の成長と自立 ④ユーラシア大陸の出現			
12月	2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	①明の国際秩序と東・東南アジア ②世界帝国清とアジア諸国の成熟 ③スペインとポルトガルの進出 ④イスラーム世界の成熟	1月実力考査	
1月	①明の国際秩序と東・東南アジア			
2月	②世界帝国清とアジア諸国の成熟	③モンゴル帝国後の西アジア、南アジア諸国の歴史の変遷や特徴を理解する。	学年末考査	
3月	③スペインとポルトガルの進出 ④イスラーム世界の成熟			

定期考査	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題 100点満点50分のテスト
	予定範囲	前期中間考査 1部世界史のまなざし～2部1章東アジア・中央ユーラシア 前期末考査 2部2章 南アジアと東南アジア 後期中間考査 2部3章 西アジアと地中海周辺～3部1章①イスラーム世界の拡大 学年末考査 3部1章②ヨーロッパ封建社会の展開～3部2章②世界帝国清とアジア諸国の成熟

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	世界の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技術を身につけている。	世界の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりしている。	世界の歴史の展開に関わる諸事象について、国家および社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価基準	定期考査、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考査、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考査における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する

学習の手引き	(1) 予習…教科書を熟読し、「授業用整理ノート」の穴埋めを完成させる。 (2) 授業…授業中は集中して説明事項の内容を理解し、生徒同士で内容を説明したり、まとめたりする能力を身に付ける。 (3) 復習…「総合マスター世界史」や「世界史重要語句 Check List」を活用して、知識の整理と定着を図る。
--------	--

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
公民	公共	2	全	一斉	2	高等学校 公共 (第一学習社)	『公共ノート』(第一学習社) 『最新図説 公共』(浜島書店)

目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
----	--

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
学習計画	4月～5月	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。【知識・技能】 ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。【思考力、判断力、表現力】	
	6月～9月	第3章 公共的な空間における基本的原理	・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。【知識・技能】 ・公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。【思考力、判断力、表現力】	前期中間考查 前期末考查
	10月～12月	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち	・基本的人権が保障されるにいたった経緯を、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。【知識・技能】 ・法をよりよく変えていくために、自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。【思考力、判断力、表現力】	10月実力 後期中間
	1月～3月	第2章 政治的な主体となる私たち	・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。【思考力、判断力、表現力】 ・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。【知識・技能】	1月実力 学年末考查

定期考查	出題方針	授業、教科書、その他課題などから出題する。 ・基本問題約7割、応用問題を約3割出題。時事問題も出題。 ・100点満点60分のテスト	
	予定範囲	前期中間	「第1編第1章～第2章」の学習した範囲から出題
		前期末	「第1編第2章～第3章」の学習した範囲から出題
		後期中間	「第1編第3章、第2編第1章」の学習した範囲から出題
		学年末	「第2編第1章～第2章」の学習した範囲から出題

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価基準	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查、授業での活動や各種課題の取り組み	定期考查における主体的な学習態度を測る問いへの記述や、授業でのグループ活動や各種課題の取り組み
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する

学習の手引き	① 授業…授業を大切に。説明を聞き漏らさないこと。積極的授業へ参加すること。自分の意見を組み立て、発表できるようにすること。 ② 復習…授業で理解したことを授業ノートを使って確認すること。問題演習で基本事項は定着させる。 ③ 予習…新聞等で日ごろから時事問題について興味関心をもち、問題意識を持って考察できるようにしておく
--------	---

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学Ⅱ	3	文系	一斉	2	数学Ⅱ Standard (東京書籍)	Forcus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル(啓林館)
目標	数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい			考查等
	4月(8)	第3章 三角関数 第2節 加法定理 (11時間)		・三角関数の相互関係などの基本的な性質や加法定理を理解し、三角関数の加法定理から2倍角の公式や三角関数の合成などの新たな性質を導き、理解することができる。			第1回実力考查
	5月(10)	第5章 微分と積分 第1節 微分の考え 第2節 積分の考え (28時間)		・関数とその導関数との関係について考察し、導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解することができる。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めるとともに、微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。			前期中間考查
	6月(10)						
	7月(8)						
	8月(3)						前期末考查
	9月(8)	第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 (14時間)		・指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ・指数関数や対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察し、指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。			第2回実力考查
	10月(9)						
	11月(10)	総合演習 (37時間)		・数学総合演習			後期中間考查
	12月(6)						
	1月(8)						第3回実力考查
	2月(7)						
	3月(3)						学年末考查
定期考查	出題方針	・教科書の範囲を中心に出题する。 ・60分 100点					
	予定範囲	前期中間	数学Ⅱ: 第3章 三角関数				
		前期末	数学Ⅱ: 第5章 微分と積分				
		後期中間	数学Ⅱ: 第4章 指数関数と対数関数				
		学年末	数学Ⅱ: 総合演習				
実力考查	出題方針	・教科書の内容をふまえて課題から5割、実力問題を5割の割合で出题する。 ・110分 200点					
	予定範囲	第1回実力	1学年次の春季課題から5割、実力問題を5割				
		第2回実力	夏季課題・秋季課題から5割、実力問題を5割(これまでに既習した内容から出题)				
		第3回実力	冬季課題から5割、実力問題を5割(これまでに既習した内容から出题)				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法及び、関数と極限、いろいろな関数の微分法についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。		関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察する力、数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察する力を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけている。		
評価基準	定期考查 提出物の提出状況(小テスト等を含む) 単元テスト		定期考查 実力考查 単元テスト		授業への取り組み(授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等)		
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		
学習の手引き	○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて考え、理解することに集中する。 ○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学Ⅱ 数学Ⅲ	3 1	理系	一斉	2	数学Ⅱ Standard (東京書籍) 数学Ⅲ Standard (東京書籍)	Forcus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル(啓林館) Forcus Gold Smart 数学Ⅲ+複素数平面・平面上の曲線(啓林館)
目標	数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月(10)	数学Ⅱ 第3章 三角関数 第2節 加法定理 (10時間)			・三角関数の相互関係などの基本的な性質や加法定理を理解し、三角関数の加法定理から2倍角の公式や三角関数の合成などの新たな性質を導き、理解することができる。		第1回実力考查 前期中間考查
	5月(14)	第5章 微分と積分 第1節 微分の考え 第2節 積分の考え (28時間)			・関数とその導関数との関係について考察し、導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解することができる。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めるとともに、微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。		
	6月(14)						
	7月(10)	第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数			・指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ・指数関数や対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察し、指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。		前期末考查
	8月(4)	第2節 対数関数 (14時間)					
	9月(10)	数学Ⅲ 第1章 関数と極限 第1節 関数			・簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、既に学習した関数の性質と関連付けて多面的に考察するとともに、合成関数や逆関数の意味を理解し、簡単な場合についてそれらを求めることができる。 ・数列の極限について理解し、簡単な数列の極限を求めるとともに、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察することができる。 ・無限級数の収束、発散について理解し、無限等比級数などの簡単な無限級数の和を求めることができる。 ・関数の値の極限について理解することができる。		第2回実力考查
	10月(12)	第2節 数列の極限 第3節 関数の極限 (22時間)					
	11月(14)	第2章 微分 第1節 微分法					
	12月(8)	第2節 いろいろな関数の導関数			・導関数を求め、いろいろな関数の接線の方程式や極値を求めたりグラフをかくことができるようになる。		後期中間考查
	1月(10)	第3章 微分の応用 第1節 関数の増減 第2節 微分のいろいろな応用 (25時間)			導関数を求め、いろいろな関数の接線の方程式や極値を求めたりグラフをかくことができるようになる。 微分を用いた不等式の証明や方程式の実数解の個数を求めることができるようになる。		第3回実力考查
	2月(10)	第4章 積分 第1節 不定積分 第2節 定積分			・様々な関数の不定積分や定積分を求められるようにする。また定積分を面積として捉え、様々な事象の考察に活用できるようにする。		学年末考查
	3月(4)	第3節 面積・体積・長さ (26時間)			・定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。		
定期考查	出題方針	・教科書の範囲を中心に出题する。 ・60分 100点					
	予定範囲	前期中間	数学Ⅱ：第3章 三角関数、第5章 微分				
実力考查	出題方針	・教科書の内容をふまえて課題から5割、実力問題を5割の割合で出题する。 ・110分 200点					
	予定範囲	第1回実力	1学年次の春季課題から5割、実力問題を5割				
		第2回実力	夏季課題・秋季課題から5割、実力問題を5割(これまでに既習した内容から出题)				
		第3回実力	冬季課題から5割、実力問題を5割(これまでに既習した内容から出题)				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法及び、関数と極限、いろいろな関数の微分法についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。		関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察する力、数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察する力を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけている。		
評価基準	定期考查 提出物の提出状況(小テスト等を含む) 単元テスト	定期考查 実力考查 単元テスト		授業への取り組み(授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等)			
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する			
学習の手引き	○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて考え、理解することに集中する。 ○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学B 数学C	1 1	文系	一斉	2	数学B Standard (東京書籍) 数学C Standard (東京書籍)	Forcus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル(啓林館) Forcus Gold Smart 数学Ⅲ+複素数平面・平面上の曲線(啓林館)
目標	数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月(5)	数学B 第1章 数列 第1節 数列			<ul style="list-style-type: none"> 事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現して考察することができる。 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めるとともに、いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。 漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりするとともに、事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 数学的帰納法について理解し、自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 		第1回実力考查
	5月(7)	第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 (24時間)					
	6月(7)						
	7月(5)				前期中間考查		
	8月(2)	数学C 第1章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル			<ul style="list-style-type: none"> 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解するとともに、実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解するとともに、ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見だし、多面的に考察したりすることができる。 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解することができる。 		前期末考查
	9月(5)	第2節 ベクトルの応用 第3節 空間におけるベクトル (24時間)					
	10月(6)				第2回実力考查		
	11月(7)				後期中間考查		
	12月(4)				第3回実力考查		
1月(5)	数学B 第2章 統計的な推測 第1節 標本調査			<ul style="list-style-type: none"> 確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。 母集団と標本、標本平均、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定について理解し、考察できるようにする。 		学年末考查	
2月(5)	第2節 確率分布 第3節 正規分布						
3月(2)	第4節 統計的な推測 (12時間)						
定期考查	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の範囲を中心に出题する。 60分 100点 					
	予定範囲	前期中間	数学B: 第1章 数列				
実力考查	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容をふまえて課題から5割、実力問題を5割 110分 200点 					
	予定範囲	第1回実力	1学年次の春季課題から5割、実力問題を5割				
		第2回実力	夏季課題・秋季課題から5割、実力問題を5割(これまでに既習した内容から出題)				
		第3回実力	冬季課題から5割、実力問題を5割(これまでに既習した内容から出題)				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	数列及び、ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。		離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力。大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力。確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力。数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・確に表現する力を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけている。		
評価基準	定期考查 提出物の提出状況(小テスト等を含む) 単元テスト	定期考查 実力考查 単元テスト		授業への取り組み(授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等)			
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する		A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する			
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめ粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて考え、理解することに集中する。 ○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。 						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
数学	数学B 数学C	1 1	理系	一斉	2	数学B Standard (東京書籍) 数学C Standard (東京書籍)	Forcus Gold Smart 数学Ⅱ+B+ベクトル(啓林館)
目標	数学の学習を通し、数量や図形に対する感覚を磨くと同時に、論理的な考え方や本質を把握する判断力、および自分が考えた事を的確に表現する力を養成する。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい			考查等
	4月(5)	数学B 第1章 数列 第1節 数列		<ul style="list-style-type: none"> 事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現して考察することができる。 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めるとともに、いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。 漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりするとともに、事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 数学的帰納法について理解し、自然数の性質などを見だし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 			第1回実力考查
	5月(7)	第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 (24時間)					
	6月(7)						
	7月(5)						
	8月(2)	数学C 第1章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル		<ul style="list-style-type: none"> 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解するとともに、実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解するとともに、ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見だし、多面的に考察したりすることができる。 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解することができる。 単元ごとに復習 			前期末考查
	9月(5)	第2節 ベクトルの応用 第3節 空間におけるベクトル (24時間)					
	10月(6)						
	11月(7)						
	12月(4)	1月(5)		<ul style="list-style-type: none"> 数学総合演習 			第3回実力考查
2月(5)	2月(5)						
3月(2)	3月(2)						
定期考查	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の範囲を中心に出题する。 60分 100点 					
	予定範囲	前期中間	数学B:第1章 数列				
		前期末	数学B:第1章 数列				
		後期中間	数学C:第1章 ベクトル				
		学年末	数学C:第1章 ベクトル				
実力考查	出題方針	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容をふまえて課題から5割、実力問題を5割の割合で出题する。 110分 200点 					
	予定範囲	第1回実力	1学年次の春季課題から5割、実力問題を5割				
		第2回実力	夏季課題・秋季課題から5割、実力問題を5割(これまでに既習した内容から出题)				
		第3回実力	冬季課題から5割、実力問題を5割(これまでに既習した内容から出题)				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	数列及び、ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。		離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確に表現する力を身につけている。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身につけている。		
評価基準	定期考查 提出物の提出状況(小テスト等を含む) 単元テスト		定期考查 実力考查 単元テスト		授業への取り組み(授業態度、学習活動への参加状況、小テスト等)		
	A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		A:十分満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する		
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて考え、理解することに集中する。 ○授業中に理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家に持ち帰らない。 						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	物理基礎 物理	2	理系	一斉	2	物理基礎(数研) 総合物理1・2(数研)	セミナー物理(第一学習社) 物理のエッセンス(河合出版)
		2			2		

目標 物理を総合的に学ぶことで、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
	4月	5月	【物理基礎】 I 運動とエネルギー 1 運動の表し方 2 運動の法則 3 仕事と力学的エネルギー	I 1 速度と加速度について学ぶ。 2 運動の法則と物体の運動について学ぶ。 3 仕事と力学的エネルギー、及び力学的エネルギーの保存について学ぶ。
6月	II 熱 1 熱とエネルギー		II 1 熱がエネルギーの1つの形態であることと、熱量保存、及び比熱、熱容量などについて学ぶ。	
7月	8月	III 波 1 波の性質 2 音	III 1 波の性質について学ぶ。 2 波の性質のうち、音について特徴的な現象について学ぶ。	前期期末
9月		IV 電気 1 物質と電気 2 磁場と交流	IV 1 物質の電氣的性質について学ぶ。 2 交流と電磁波について身近な例で考える。	
10月	11月	V 物理学と社会 1 エネルギーの利用 2 物理学が拓く未来	V 1 エネルギーとその利用について資料を基に考える。 2 物理学の最前線について資料を基に調べ、発表する。	10月実力
12月		【物理】 I 力と運動 1 剛体にはたらく力のつり合い 2 運動量の保存 3 円運動と万有引力	I 1 大きさのある物体のつり合いについて学ぶ。 2 運動量と力積の関係について学ぶ。 3 円運動と単振動、万有引力について学ぶ。	
1月	2月	II 熱と気体 1 気体のエネルギーと状態変化	II 1 気体の分子運動と気体の内部エネルギー、気体の仕事について学ぶ。	1月実力
3月		III 波 1 波の伝わり方 2 音の伝わり方	III 1 波の基本的な性質について学ぶ。 2 波の性質のうち、音波において特徴的な現象について学ぶ。	
3月		【物理・物理基礎】 探究活動	探究活動を行い、レポートを作成する。	後期期末

定期考查	出題方針	物理概念や基本法則の活用で能力を確認する問題を中心に出题する。具体的には教科書や副教材の例題や基本問題、実験を扱った問題を物理用語、公式を用いて解答する形式となる。		
	予定範囲	前期中間	【物理基礎】I 運動とエネルギー	
		前期期末	【物理基礎】II 熱、III 波、IV 電気	
		後期中間	【物理】I 力と運動 II 熱と気体	
	学年末	【物理】III 波		

実力考查	出題方針	物理を中心に出题し、大学入試に対応する学力を錬成する。日々題などの課題から5割、実力問題を5割程度とする。		
	予定範囲	10月実力	力学・熱力学から出題。	
		1月実力	力学・熱力学・波から出題。	

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	力学や波動・電磁気学の特性について理解し、実験・観察において目的に沿って的確に行うことができる。	力学・波動・電磁気学を定性的・定量的に扱い、理解・考察ができ、的確に表現することができる。	身近な物理現象への関心を深め進んで理解しようとしている。実験・観察において目的をもって取り組もうとしている。
3つの観点についてそれぞれ次のA～Cで評価する	A 十分満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する	① 授業への取り組み ② 定期考查、実力考查、単元テストの成績 ③ 各種課題への取り組み ※①～③を総合的に判断	

学習の手引き	1 授業の復習を毎日20分ずつ行い、日々題でその日の学習内容を定着させる。 2 ノートは大学ノートを用い、授業用、課題用の各1冊を用意する。指定した時期に提出を求める。 3 課題及びレポートの提出期限を守る。 4 長期休業中にはまとまった課題を配布し、休み明けの課題・実力考查の試験範囲の一部を課題から出題する。		
--------	---	--	--

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	化学	3	理系	一斉	2	化学(数研出版)	セミナー化学基礎+化学(第一学習社) サイエンスビュー化学総合資料(美教出版)
目標	物質の構成粒子(原子・分子等)の基本的な概念を理解し、物質についてミクロな見方ができるようにする。また、物質に関する関心を高め、いろいろな物質の構造・性質・反応を理解する						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4月	酸化還元反応			・酸化と還元について学ぶ ・金属の酸化還元反応とその利用について理解する		4月実力考查
	5月	電池と電気分解			・電池の原理とその種類について理解を深める ・電気分解の原理とその量的関係について理解する		
		6月	固体の構造 物質の状態変化			・電解工業について理解を深める ・結晶の種類とその特徴の違いについて理解する ・状態変化と熱との関係を理解する	
	7月		気体			・気液平衡や蒸気圧の概念について理解を深める ・気体の体積と圧力、温度との関係について学ぶ ・気体の状態方程式と分圧の法則について理解する	
		8月	溶液			・理想気体と実在気体との違いを理解する ・溶解のしくみについて学ぶ ・溶解度と溶液の濃度について理解する ・希薄溶液の性質について理解を深める	
	9月		化学反応とエネルギー			・コロイド溶液について理解する ・化学反応と反応熱について学ぶ ・ヘスの法則について理解する	
		10月	化学反応の速さとしくみ			・化学反応の速さとその関係について理解を深める ・活性化エネルギーと触媒について知る	
	11月		化学平衡			・可逆反応と質量作用の法則について理解する ・ルシャトリエの原理を深める	
		12月	非金属元素			・弱酸・弱塩基の電離度と電離定数との関係について理解する ・pHの定義を学ぶ ・塩の加水分解と弱酸・弱塩基の遊離、緩衝作用について理解する	
	1月		金属元素(Ⅰ)ー典型元素ー			・溶解平衡と溶解度積について理解を深める ・元素の周期表について、特性や元素の規則性を学ぶ ・水素、希ガス、ハロゲンの単体や化合物の特性について理解する	
		2月	金属元素(Ⅱ)ー遷移元素ー			・酸素・硫黄、窒素、炭素の単体や化合物の特性について理解する ・アルカリ金属と2族元素の単体や化合物の特性について理解する ・両性元素の単体や化合物の特性などについて理解する	
	3月		金属元素(Ⅱ)ー遷移元素ー			・遷移元素全般とその特徴について理解する ・鉄や銅などの単体や化合物の特性について理解する ・銀などの単体や化合物の特性について理解する	
定期考查		出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題 ・100点満点50分のテスト				
	予定範囲	前期中間	気体の状態方程式まで				
		前期末	化学反応の速さまで				
		後期中間	ルシャトリエの平衡移動の原理まで				
学年末	典型金属元素の単体と化合物まで						
実力考查	出題方針	・教科書の内容、副教材から約5割、応用問題を約5割出題 ・100点満点60分のテスト					
	予定範囲	4月実力	春休み課題から出題(1年次の復習)				
		10月実力	ヘスの法則まで				
1月実力	電離平衡とpHまで						
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	物質の成り立ちや性質、化学反応について理解し、実験・観察において目的に沿って的確に行うことができる。		物質を定性的・定量的に扱い、考察することができる。具体的な実験を基に物質の性質を理解し、的確に表現することができる。		身近な化学事象への関心を深め進んで理解しようとしている。実験・観察において目的を持って取り組もうとしている。		
	3つの観点について それぞれ次のA~C で評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する		① 授業への取組 ② 定期考查、実力考查の成績 ③ 各種課題への取組 * ①~③を総合的に判断する		
学習の手引き	(1)予習…教科書を読み、次時の学習事項を確認する。 (2)授業…授業が勝負です。予習した学習事項を確認しながら、授業に集中し考えることが大切です。授業中理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家まで持ち帰らない。 (3)復習…授業で理解したことを再認識するためにまとめノートを作成したり、問題集を何回も繰り返し学習することで、重要な理論・法則を思い出しながらい、自分の理解度を深めることができます。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	生物基礎	2	文系	一斉	2	高等学校 生物基礎(第一学習社)	生物基礎研究ノート(博洋社) 新課程フォトサイエンス生物図録(数研出版) 改訂ニューアチーブ生物基礎(東京書籍) デジタル教材生物基礎セット(Libry)

目標		・生物基礎:日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度とともに、生物学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい		考查等	
	生物基礎 4月 5月	第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 1. 生物の特徴	・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解させる。 ・藻類、菌類、細菌の観察結果から、すべての生物のからだは細胞からなることを見だし、生物が共通にもつ特徴を理解させる。 ・細胞小器官を通して、生物の共通構造-細胞-を理解させる。 ・代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解させる。 ・酵素の基本的な特徴について理解させる。		前期中間 考査		前期末 考査
	6～7月 7～9月	2. 生物とエネルギー	・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解させる。 ・間期の間にDNAが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解させる。 ・DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ(転写)、これがアミノ酸配列に置き換えられる(翻訳)という流れを理解させる。 ・細胞分裂をもとにDNAが複製され分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解させる。		第2回実 力考査		
	9～11月	第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝子の本体と構造 2. 遺伝情報とタンパク質	・自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解させる。 ・内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解させる。 ・免疫を担う細胞や器官の種類と働きを概要を理解する。 ・自然免疫のしくみを理解する。 ・獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。		後期中間 考査		第3回実 力考査
12～3月	第2編 ヒトのからだの調節 第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 2. 免疫 *	・植生は、相親によって森林・草原・荒原に大別されることを理解させる。 ・植生は不変ではなく、遷移していることを理解させる。		学年末 考査			
定期考査	出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題。 ・100点満点、50分で実施する。					
	予定範囲	前期中間	生物基礎(第1編)				
		前期末	生物基礎(第1編～第2編)				
		後期中間	生物基礎(第2編～第3編)				
学年末		生物基礎(第1編～第3編)					
実力考査	出題方針	・教科書の内容、副教材を中心に応用問題を含めて出題する。 ・大学入試問題を意識した内容とする。50点満点、地学基礎と合わせて60分で実施する。					
	予定範囲	第2回実 力	生物基礎(第1編～第2編)				
観点別 評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	目的に沿って実験・観察を的確に行い、生物や生命現象の基本的概念や原理・法則について理解し、知識として身に付けている。		基本的概念や原理・法則をもとに、科学的・論理的な思考・判断ができる。また、目的に合った実験を計画し、検証を行うことができる。		身近な生命現象への関心を深め進んで理解しようとしている。実験・観察において主体的に取り組もうとしている。		
学習の 手引き	3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する		① 授業への取組 ② 定期考査、実力考査の成績 ③ 各種課題への取組 *①～③を総合的に判断する		
	(1)予習…教科書を一読して、学習内容を把握し、疑問点をもって授業に臨もう。 (2)授業…最大限に頭を働かせて、授業内容をしっかりと聞き、理解するよう努めること。理解できないことは、まずは自ら調べ、その上で担当の先生へ質問する。話し合い活動では、間違いを恐れず積極的に自分の意見を述べ、相手の意見を聴くように心がけよう。 (3)復習…授業のあった日に復習しよう。まず授業内容を再確認し、その意義や理由、他の分野とのつながりについてもよく考え理解する。このとき図やグラフを描く、基本用語を声に出すなど感覚をフル活用する工夫をするとよい。また、週末等の時間に余裕があるときに、問題演習を行うことで自分の理解度を客観的に評価する。更なる理解力と論理的な思考力も身に付ける。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	生物基礎	2	理系	一斉	2	高等学校 生物基礎(第一学習社)	生物基礎研究ノート(博洋社) 新課程フォトサイエンス生物図録(数研出版) 改訂ニューアチーブ生物基礎(東京書籍)

目標	・生物基礎:日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度とともに、生物学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
----	--	--	--	--	--	--	--

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考查等
学習計画	生物基礎 4～6月	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 2. 生物とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解させる。 藻類、菌類、細菌の観察結果から、すべての生物のからだは細胞からなることを見だし、生物が共通にもつ特徴を理解させる。 細胞小器官を通して、生物の共通構造-細胞-を理解させる。 代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解させる。 遺伝子とDNAと染色体の関係について理解させる。 間期の間にDNAが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解させる。 DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ(転写)、これがアミノ酸配列に置き換えられる(翻訳)という流れを理解させる。 細胞分裂をもとにDNAが複製され分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解させる。 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解させる。 内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解させる。 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解させる。 自然免疫のしくみを理解させる。 獲得免疫による病原体排除の流れを理解させる。 植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解させる。 植生は不変ではなく、遷移していることを理解させる。 バイオームの概念を理解し、陸上にはその地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解させる。 地球上には、それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解させる。 生態系の構成について理解させる。 食物連鎖を通じて間接的に他の生物に影響を与えることがあることを理解させる。 人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解させる。 	前期中間考查
	6～7月	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造 2. 遺伝情報とタンパク質		前期期末考查
	7～9月	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 2. 免疫		
		第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 2. バイオーム		
		第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 2. 生態系のバランスと保全		

定期考查	出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題。 ・100点満点、50分で実施する。	
	予定範囲	前期中間	生物基礎(第1章～第2章)
		前期期末	生物基礎(第2章～第3章)

実力考查	出題方針	・教科書の内容、副教材を中心に応用問題を出题する。 ・大学入試問題を意識した内容とする。100点満点、60分で実施する。	
	予定範囲	第2回実力	生物基礎(第1章～第2章)
		第3回実力	生物基礎(第1章～第3章)

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	目的に沿って実験・観察を的確に行い、生物や生命現象の基本的概念や原理・法則について理解し、知識として身に付けている。	基本的概念や原理・法則をもとに、科学的・論理的な思考・判断ができる。また、目的に合った実験を計画し、検証を行うことができる。	身近な生命現象への関心を深め、進んで理解しようとしている。実験・観察において主体的に取り組もうとしている。

3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する	A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	① 授業への取組 ② 定期考查、実力考查の成績 ③ 各種課題への取組	*①～③を総合的に判断する
---------------------------------	---	--	---------------

学習の手引き	(1)予習…教科書を一読して、学習内容を把握し、疑問点をもって授業に臨もう。 (2)授業…最大限に頭を働かせて、授業内容をしっかりと聞き、理解させるよう努めること。理解できないことは、まずは自ら調べ、その上で担当の先生へ質問する。話し合い活動では、間違いを恐れず積極的に自分の意見を述べ、相手の意見を聴くように心がけよう。 (3)復習…授業のあった日に復習しよう。まず授業内容を再確認し、その意義や理由、他の分野とのつながりについてもよく考え理解させる。このとき図やグラフを描く、基本用語を声に出すなど感覚をフル活用する工夫をするとよい。また、週末等の時間に余裕があるときに、問題演習を行うことで自分の理解度を客観的に評価する。更なる理解力と論理的な思考力も身に付ける。
--------	---

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	生物	2	理系	一斉	2	高等学校 生物(第一学習社)	新課程フォトサイエンス生物図録(数研出版) 新課程版セミナー生物基礎+生物(第一学習社) ニューアチーブ生物(東京書籍)

目標	・生物:生物や生命現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。
----	--

学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい	考査等
学習計画	生物 10～12月	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と細胞の進化 2. 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 3. 進化のしくみ	・原始地球の環境における有機物の生成に関する実験にもとづいて、生命の起源に関する考えを理解させる。 ・突然変異およびDNAの塩基配列の変化によってアミノ酸配列が変化するしくみを理解させる。 ・減数分裂によって生じる配偶子の染色体の組み合わせについて理解させる。 ・組換えが生じることによって、配偶子の染色体構成が多様化することと組み換え価について理解させる。 ・中立進化が生じるしくみや、集団内に広まる要因について理解させる。	第2回実力考査
	12～2月	第2章 生物の系統と進化 1. 生物の系統 2. 人類の系統と進化	・種間に共通してみられるタンパク質のアミノ酸配列の違いにもとづいて系統関係を推定できることを見いだして理解させる。 ・分子時計の考え方を理解させる。 ・生物の分類の階級を理解させる。 ・霊長類の進化の過程を理解させる。 ・霊長類に関する資料にもとづいて、ヒトを含む人類の形態的特徴と進化の過程に関連があることに気づき、人類の進化の道筋について考察する。	後期中間考査
	2～3月	第3章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 生命現象とタンパク質	・生物を構成する主な物質は、水、タンパク質、脂質、炭水化物であることを理解させる。 ・生体膜は、リン脂質二重層にさまざまなタンパク質がモザイク状に分布したものであることを理解させる。 ・真核細胞内の細胞骨格や構造体について理解させる。 ・タンパク質は、アミノ酸がペプチド結合によって多数つながった物質であり、一次構造、二次構造、三次構造、四次構造をとることを理解させる。	第3回実力考査
		第4章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 炭酸同化 3. 異化 *第4章以降は、授業進度を見て判断する	・炭酸同化のしくみについて、光合成の過程における水素イオンの動きについて理解させる。 ・異化について、エネルギーの流れを考えさせながら呼吸の過程を理解させる。 ・呼吸商から呼吸基質に使われる物質を推定させる。 ・異化について、アルコール発酵のしくみについて理解させる。	学年末考査

定期考査	出題方針	・教科書の内容を中心に、副教材の問題をふまえて出題。 ・100点満点、50分で実施する。
------	------	---

定期考査	予定範囲	後期中間 生物基礎(全範囲)、生物(第1～第2章) 学年末 生物(第1～4章)*第4章は授業進度による
------	------	--

実力考査	出題方針	・教科書の内容、副教材を中心に応用問題を出題する。 ・大学入試問題を意識した内容とする。100点満点、60分で実施する。
------	------	---

実力考査	予定範囲	第2回実力 生物基礎(全範囲) 第3回実力 生物基礎(全範囲)、生物(第1章～第3章)
------	------	--

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	目的に沿って実験・観察を的確に行い、生物や生命現象の基本的概念や原理・法則について理解し、知識として身に付けている。	基本的概念や原理・法則をもとに、科学的・論理的な思考・判断ができる。また、目的に合った実験を計画し、検証を行うことができる。	身近な生命現象への関心を深め、進んで理解しようとしている。実験・観察において主体的に取り組もうとしている。

3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する	A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する	① 授業への取組 ② 定期考査、実力考査の成績 ③ 各種課題への取組	*①～③を総合的に判断する
---------------------------------	------------------------------------	--	---------------

学習の手引き	(1)予習…教科書を一読して、学習内容を把握し、疑問点をもって授業に臨もう。 (2)授業…最大限に頭を働かせて、授業内容をしっかりと聞き、理解させるよう努めること。理解できないことは、まずは自ら調べ、その上で担当の先生へ質問する。話し合い活動では、間違いを恐れず積極的に自分の意見を述べ、相手の意見を聴くように心がけよう。 (3)復習…授業のあった日に復習しよう。まず授業内容を再確認し、その意義や理由、他の分野とのつながりについてもよく考え理解させる。このとき図やグラフを描く、基本用語を声に出すなど感覚をフル活用する工夫をすることよ。また、週末等の時間に余裕があるときに、問題演習を行うことで自分の理解度を客観的に評価する。更なる理解力と論理的な思考力も身に付ける。
--------	---

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
理科	地学基礎	2	文系	一斉	2	数研出版 改訂版 高等学校 地学基礎	2026セミナー地学基礎(第一学習社) リードLight/ノート改訂版地学基礎(数研出版) 三訂版ニューステージ地学図表(浜島書店) 地学基礎研究ノート(博洋社)
目標	私たちの住む地球は、太陽系に属する惑星です。そして、その地球は現在知られている限り生命の宿る唯一の星です。その事を踏まえたとき、自分の住む場所について深く知っておくことは決して無駄なことではないことが分かります。地学基礎では、地球の概観・地表付近で起こる諸現象・地球史とその調べ方・気象・宇宙などについて学び、地学分野に関する観察、実験などを通して、地球や宇宙に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。						
学習計画	学習時期	学習内容		学習のねらい		考査等	
	4月	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 1.地球の形と大きさ 2.地球の構造		・地球の形と大きさの測定について、測定方法の歴史を踏まえて学ぶ。 ・地球内部の層構造を理解する。			
	5月	第2章 プレートの運動 1.プレートテクトニクス 2.プレート運動のしかた		・地球の表面は、十数枚のプレートでおおわれており、それぞれが別の方向に動いているため、その境界で様々な地殻変動が起こることを理解する。また、プレート運動の原動力についても理解する。			
	6月	第3章 地震 1.地震 2.地震の分布 3.地震災害		・地震発生のしくみを、プレート運動と関連付けて学ぶ。また、地震波の性質や、プレート境界と地震の分布の関係についても理解する。 ・日本付近で発生する地震について理解を深めるとともに、地震によってどのような災害が発生し、どのような対応が必要かを理解する。		前期中間	
	7月	第4章 火山 1.火山活動 2.火成岩		・火山噴火のしくみや火山地形、マグマが発生するしくみを学ぶ。 ・火山活動はプレート運動と関連があり、火山の分布はプレート境界に多いことを理解する。また、火成岩の特徴や分類についても学ぶ。			
	8月	3.火山がもたらす恵みと災害		・日本における活火山を知り、火山災害への対応だけでなく、火山の恩恵についても理解する。		前期期末	
	9月	第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 1.堆積作用と堆積岩 2.地層の形成		・堆積作用・侵食作用で形成される陸上と海底の地形や、堆積岩の形成過程を学ぶ。 ・地層の重なり方や変形のしかた、堆積構造を観察することで、地層の本来の層序や堆積環境がわかることを理解する。			
	10月	第2章 古生物の変遷と地球環境 1.化石と地質時代の区分 2.先カンブリア時代 3.古生代 4.中生代 5.新生代		・地球と生命の歴史をひもとく、地球と生命の関係の理解を深める。生物界や地球環境の変遷とそれを調べる方法、及び地質時代の区分や時間的なスケールを理解する。 ・地球史について文献調査・発表を行い理解を深める。		10月実力	
	11月	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1.大気の大循環 2.地球全体の熱収支		・大気の大循環について理解する。太陽放射エネルギーと地球のエネルギー収支について理解する。地球の自然環境は、地球のエネルギー収支のつりあいの上に成り立っていることを学ぶ。		後期中間	
	12月	第2章 大気と海水の運動 1.大気の大循環		・大気や海水の大循環は、緯度方向の熱収支の不均衡を是正するためのものであることを理解する。			
	1月	2.日本の天気と気象災害 3.海水の運動		・長い時間をかけてめぐる海洋の鉛直方向の循環を学ぶ。 ・日本の各季節の天気の特徴を理解し、気象災害について学び、防災に役立てる。		1月実力	
	2月	第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1.地球環境の変化		・気候の自然変動や人間活動による環境変化を、全地球的な空間スケール、および長期的な時間スケールでとらえて理解する。環境保全を巡りながら、持続可能な開発をする必要があることも学ぶ。			
3月	2.日本の自然環境		・日本は、特徴的な地形や気候により豊かな自然環境が育まれていることを理解する。多発する自然災害に対応する必要があることも学ぶ。		学年末		
定期考査	出題方針	・教科書の既習範囲と副教材等から出題 ・100点満点50分のテスト					
	予定範囲	前期中間	第1編 第1章～第3章				
		前期期末	第1編 第3章～第4章				
		後期中間	第2編 第1章～第2章、第3編 第1章				
学年末		第3編第2章、第4編 第1章					
実力考査	出題方針	既習範囲全てを出題範囲とし、応用問題を中心に出題する。					
	予定範囲	10月実力	9月までに学習した範囲で、応用問題を出題する。				
		1月実力	12月までに学習した範囲で、応用問題を出題する。				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	基本的な知識の習得や知識の概念的な理解が出来る。さまざまな観察・実験操作の基本的な技術の習得ができています。		身の回りの現象を探究し、自ら考えて答えることができている。習得した「知識・技能」を活用して課題を解決する力を身につけることができる。		知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組む、自ら学習を調整しようとしている。		
	3つの観点について それぞれ次のA～C で評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する		① 授業への取組 ② 定期考査、実力考査の成績 ③ 各種課題への取組 *①～③を総合的に判断する		
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・予習は、教科書を一読しておく程度で良い。一読して理解できなかった部分を授業中に理解できるように努めること。 ・授業では、教科書や図表などを活用しながら、「なぜそうなるのか」「どのように解決するのか」など自ら考えるように心がける。また、図やグラフ、表の読み取りや表現にも慣れよう。また、図説は日頃から目を通すようにすること。 ・復習は、その日に学習した内容を必ず見直し基本的な問題に取り組み、理解を深めること。また、週末等の時間を活用し、問題演習に必ず取り組むこと。 ・小テストを行う。しっかりと取り組み基本事項の定着を図ること。 ・学校での学習だけでなく、日頃から新聞記事やニュースなどに注目し、火山噴火・地震・日々の天気の変化などに注意を払っておくこと。 						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
保健体育	体育	3	共通	種目選択	2	現代高等保健体育(大修館)	アクティブスポーツ(大修館)

目標	<p>1 スポーツについての知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わう。</p> <p>2 自分にあった体力の向上を目指す。</p> <p>3 スポーツを通して「公正・協力・責任・参画」に対する意欲を高め、自ら健康・安全を確保できるようにする。</p>						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		
	8月 2月	体育理論			<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツの意義や歴史, 文化的特徴や現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について学ぶ。 ●前期と後期に分けて学習する。 		
	4月 8月	体づくり運動			<ul style="list-style-type: none"> ●仲間と積極的に交流するための手軽な運動や規律的な運動を通して, 心と体は互いに影響し変化することに気づき, 自分の体の調子に応じて体の調子を整えながら「体ほぐしの運動」ができるようになる。 ●ねらいに応じて, 健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための「体力を高める運動」の計画を立て取り組む。 ●前期と中期に学習する。 		
	年間を通して複数領域から種目を選択して学習する。	選択	球技(前期)	ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> ●「ベースボール型」の球技として学習する。 ●安定したバット操作と走塁での攻撃, ボール操作, 連携した守備などによって攻防を展開することを学ぶ。 		
				ソフトテニス	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。 		
				バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を学ぶ。 		
			水泳	<ul style="list-style-type: none"> ●自分に適した泳法を身につけ, その効率を高めて泳ぐことを学ぶ。 ●記録の向上や水泳の楽しさや喜びを味わいながら泳ぐことを学ぶ。 			
			球技(後期)	バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ●「ゴール型」の球技として学習する。 ●安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開することを学ぶ。 		
				サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●役割に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を学ぶ。 		
				バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。 		
卓球			<ul style="list-style-type: none"> ●「ネット型」の球技として学習する。 ●状況に応じたボール操作や安定したラケットの操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開することを学ぶ。 				
ダンス			<ul style="list-style-type: none"> ●創作ダンスでは, 表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ, 個や群で, 緩急強弱のある動きや空間の使い方を変化をつけて即興的に表現したり, 簡単な作品にまとめたりして踊ることを学ぶ。 ●現代的なリズムのダンスでは, リズムの特徴をとらえ, 変化とまとまりをつけて, リズムに乗って全身で踊ることを学ぶ。 				
陸上			<ul style="list-style-type: none"> ●おもに「競走」の長距離走を学習する。 ●目標タイムを達成するペースを自分の技能・体力に合わせて設定し, 自分に適したペースを維持して走ることを学ぶ。 				
観点別評価	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
内容	<p>運動の合理的, 計画的な実践を通して, 運動の楽しさや喜びを味わい, 生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため, 運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに, それらの技能を身につけている。</p>			<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて思考判断するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>		<p>生涯にわたって継続して運動に親しむために, 運動における競争や協働の経験を通して, 公正に取り組む, お互い協力する, 自己の責任を果たす, 参画する, 一人一人の違いを大切にしようとするとともに, 健康と安全を確保している。</p>	
評価基準	実技テスト			実技テスト 各種スコアカード・グループ日誌		授業への参加・取り組み状況 各種スコアカード・グループ日誌	
	<p>A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する</p>			<p>A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する</p>		<p>A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する</p>	
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に目を通して, 選択種目のルールや練習方法等を確認する。 ・体育は身体を動かすことが大切です。積極的に身体を動かし, 分からないことはその場で質問する。 						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
保健体育	保健	1	共通	一斉	2	現代高等保健体育(大修館)	現代保健ノート(大修館)

目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
----	---

学習計画	学習内容		学習のねらい	考查等
	4月	○生涯を通じる健康		
5月	1ライフステージと健康	各ライフステージにおける健康課題について理解している。		
6月	2思春期と健康 3性意識と性行動の選択 4妊娠・出産と健康 5避妊法と人工妊娠中絶	思春期の心と体について例解している。 正しい性意識と性行動について理解している。 妊娠・出産の過程を理解し、健康に留意すべき点を説明できる。 家族計画の意義と避妊法および人工妊娠中絶の条件や心身におよぼす影響を理解している。		
7月	6結婚生活と健康	加齢にともなう心身の変化や中高年期を健やかに過ごすための留意点を理解している。		
8月	7中高年期と健康 8働くことと健康	働くことと健康の関わりについて理解している。		
9月	9労働災害と健康 10健康的な職業生活	労働災害とその要因について理解している。 職場の健康に関する取り組みについて理解している。		
10月	○健康を支える環境づくり			
11月	1大気汚染と健康 2水質汚濁、土壌汚染と健康 3環境と健康にかかわる対策 4ごみの処理と上下水道の整備	環境汚染の健康への影響を理解している。 環境汚染の防止・改善への対策を理解している。 ごみ処理の過程やし尿・下水道の整備について問題点や対策をあげることができる。		
12月	5食品の安全性 6食品衛生にかかわる活動 7保健サービスとその活用 8医療サービスとその活用 9医薬品の種類とその活用 10さまざまな保健活動や社会的対策 11健康に関する環境づくりと社会参加	食品衛生管理や食品の安全性のための対策例について理解している。 保健サービスや行政の役割について理解している。 医療の供給や医療サービスについて理解している。 医薬品の種類や副作用に対する取り組みについて理解している。 健康を支える保健活動と社会的対策について理解している。		
1月				
2月				
3月				学年末考查

定期考查	出題方針	教科書の内容を中心に、現代保健ノート、教材プリントからも出題する。							
	予定範囲	<table border="1"> <tr> <td>前期中間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>前期期末</td> <td>教科書「p.76ライフステージと健康」～「p.96健康的な職業生活」の範囲内で記述回答方式で出題する。</td> </tr> <tr> <td>後期中間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学年末</td> <td>教科書「p.100大気汚染と健康」～「p.127健康に関する環境づくりと社会参加」の範囲内で記述回答方式で出題する。</td> </tr> </table>	前期中間		前期期末	教科書「p.76ライフステージと健康」～「p.96健康的な職業生活」の範囲内で記述回答方式で出題する。	後期中間		学年末
前期中間									
前期期末	教科書「p.76ライフステージと健康」～「p.96健康的な職業生活」の範囲内で記述回答方式で出題する。								
後期中間									
学年末	教科書「p.100大気汚染と健康」～「p.127健康に関する環境づくりと社会参加」の範囲内で記述回答方式で出題する。								

実力考查	出題方針								
	予定範囲	<table border="1"> <tr> <td>4月実力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5月実力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10月実力</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月実力</td> <td></td> </tr> </table>	4月実力		5月実力		10月実力		1月実力
4月実力									
5月実力									
10月実力									
1月実力									

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価基準	定期考查 保健課題(保健ノート)	定期考查 保健課題(保健ノート)	ペアワークなどの取組 保健課題(保健ノート) 個人・グループでの発表
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する

学習の手引き	<p>(1) 予習・・・教科書・保健ノートに目を通して、その日の学習事項・内容を確認する。</p> <p>(2) 授業・・・先生の説明する教科単元の内容を理解し実践することが大切です。授業中理解できなかったことは、その日のうちに質問する。疑問を家まで持ち帰らない。</p> <p>(3) 復習・・・授業で理解したことを再認識するのに効率の良い学習法は、保健ノート学習です。自分の理解度を知ることができます。</p>
--------	---

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
芸術	音楽Ⅱ	2	文系選択	一斉	2年	高校生の音楽2(教育芸術社)	適宜プリント等を配布

目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		備考
	前期	4～5月	曲に合った歌い方で表現しよう 「糸」「何度でも」		・歌詞の内容や楽譜の情報(音楽を形づくっている要素の視点)などから曲に合った歌い方を考え、表現方法を工夫して歌う。		・実技や作品などの結果だけでなく、そこに至る過程も見取り、「思考力・判断力・表現力」や「主体的に取り組む態度」も評価します。 ・鑑賞では口頭での発表や記述で自分がイメージしたことを伝えてもらい、それらを評価します。
		5～7月	ギターの特徴を知って演奏しよう 「Stand By Me」		・ギターの様々な奏法や特徴を知る。 ・コードの仕組みを知り、複数のコードを覚えてギターで演奏したり、リコーダーと合わせてアンサンブルしたりする。		
		7～9月	詩のイメージを膨らませて旋律をつくらう		・詩の内容からイメージを膨らませ、音楽を形づくっている要素を工夫して旋律にする。		
	後期	10～11月	総合芸術を鑑賞しよう (ミュージカル・文楽・オペラ・歌舞伎)		・総合芸術と呼ばれる舞台を複数鑑賞し、違いや共通点などについて気付く。 ・各総合芸術についての特徴や良さを自分の言葉で伝えたり、音楽の役割について考えたりする。		
		11月	日本各地の伝統音楽を調べよう		・日本各地に伝わる民俗芸能や民謡を調べ、その魅力を伝え合う。		
12～2月		お箏を演奏しよう 「六段の調べ」「さくら」		・お箏の仕組みや歴史などを知り、実技活動を通して、奏法や音色の特徴を学習する。			
2～3月	興味をもった音楽について発表しよう		・これまでの学習で更に深めたいと思った分野について演奏をしたり、調べてまとめたりして発表する。				
定期考査	出題方針	題材の内容に応じて、知識・技能の定着を見るために実技や筆記試験を行います。(授業内で実施)					
	予定範囲	前期	歌唱や器楽の実技 作曲				
		後期	調べ学習の発表 器楽の実技				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
目標	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		・自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することができる。 ・音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組む。		
評価の観点及びその趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。		音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
評価基準	実技テスト、ワークシート等		実技テスト、ワークシート等		実技活動、ワークシート等		
	実技やワークシートの記入など、評価の対象となるものについて、題材毎に三観点における評価基準を3つ程度(大変よくできた・できた・努力を要する等)設定し、内容に応じて文言を詳しく提示します。						
学習の手引き	基本的に2時間を通して諸活動を行います。音楽Ⅱでは、音楽Ⅰで学習したことを基にしながら更に深く表現や鑑賞の活動を行います。音楽の見方・考え方を働かせながら自己の表現に努めていきましょう。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
芸術	美術Ⅱ	2	文系 選択	一斉	2	高校生の美術2(日文)	適宜プリント等を配付

目標		美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		備考	
	前期	4月	○オリエンテーション			学習内容と心構えについて。		考査等は実施 ませんが、 授業の中で取 り組む態度、 制作のプロセ ス、作品等を 適宜評価しま す。
		5月	○表現・鑑賞・デザイン 「かごしまぐねっと」 「鹿児島」をテーマに、オリジナル のマグネットやキーホルダー等を 作成			様々な表現の作品を鑑賞し表現につなげる。 デザインの表現方法を知る。 鹿児島について調査		
			6月	プラバンを使用した制作 ①デザインを考える(構想) ②下絵を転写して着色 ③焼く			道具を扱えるようにする。 デザインを工夫し表現方法を創意工夫して制作する。 形や色彩、文字などの効果を生かす。 完成した作品を文化祭で展示する。	
		7月	○写真表現			夏休みの思い出を複数の写真で表現する。		
		8月	・相互作品鑑賞・発表会			プレゼンテーションし互いに鑑賞・評価する。		
		9月	○「鹿児島中央高校の今」 ・油彩画 ①校内散策 " ②スケッチ " ③構図と背景 " ④陰影と色彩 " ⑤細部表現 " ⑥描き込み " ⑦仕上げ			デッサンの基本的な手順の理解。 効果的な画面へのアプローチについて模索する。 対象をよく観察する。 自分を表現する効果的な方法を模索する。 重ね塗りにより色味を表現する。 モチーフの微妙な変化・美しさに気づく。		
	後期	10月						
		11月						
		12月						
		1月	・相互作品鑑賞・発表会			自他の作品のよさに気づき発表・鑑賞できる。		
		2月	○鑑賞			美術作品についての理解を深める。		
		3月	○オリエンテーション			生活や社会の中の様々な美術の働きについて考える。		
観点別評価		知識・技能			思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
内容		造形的な見方・考え方を働かせて、造形要素の働きなどについて、創造活動を通じた造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりしている。また意図に応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして表すなどの創造的な技能を身に付けている。			造形的な見方・考え方を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。また美的体験を豊かにし、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きや、美術文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	造形的な見方・考え方を働かせて、美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や、生活や社会の中の美術の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。		
評価の観点		・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。			造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む、自他のよさを認め合いながら、創造の喜びを味わおうとしている。		
評価基準		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する			A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		
		①授業への取り組み(出席状況、授業態度、活動への参加姿勢) ②授業作品の内容(制作意図の理解、感性の表現、創意工夫) ③課題などの提出状況 ①～③の状況から総合的に判断して評価する。						
学習の手引き		①美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持つ。 ②意欲的、主体的に活動し、創作活動を楽しむ。 ③基本的な学習マナー(準備と片づけ等)を身につける。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書（発行所）	副教材・発展学習教材（発行所）
芸術	書道Ⅱ	2	文系 選択	一斉	2年	書道Ⅱ（大修館出版）	適宜プリント等を配布

目標		書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化について理解を深める。					
学習計画	学習時期	学習内容	学習のねらい			備考	
	前期	4月	○漢字仮名交じりの書	・漢字仮名交じりの書の表現と共に実用書の書き方を習得する。（硬筆・ボールペン）			・ 考査等は実施しません が授業の中で取り組む態度、制作のプロセス、作品等を評価します。 ・ 適宜、作品展へ出品します。
		5月	○漢字の書の学習	・各書体の歴史的背景を理解する。			
		6月	・篆書 ・隸書 ・草書	・古典の鑑賞や臨書を通し、各書体の特徴を理解する。 ・基本的な用筆・運筆・結構を習得する。			
		7月	○漢字の書の創作	・書道Ⅰ・Ⅱで学習した古典の表現を生かし、題材や形式を選択して創作作品の制作を行い、相互に鑑賞批評を行う。			
		8月	・作品制作・鑑賞	・生活の中に書を取り入れることで、そのよさを生かす。 ・お互いの作品を鑑賞し、理解を深める。			
	後期	9月	○生活の中の書 ・作品制作・鑑賞				
		10月	○漢字仮名交じりの書の学習				
		11月	・意図に応じた表現 ・名筆に学ぶ表現の工夫 ・表現と鑑賞	・漢字と仮名の学習を基に、さまざまな表現の工夫をする。 ・古典の特徴を生かしながら、漢字と仮名の調和を図る。 ・自己の求める表現について追及し、作品制作を行う。 ・お互いの作品を鑑賞し、理解を深める。			
		12月	○仮名の書の学習				
1月		・古筆の鑑賞・臨書 ・仮名の書の創作	・仮名の基本的筆遣いを再度確認し、表現に生かす。 ・古筆の表現を参考にしながら、仮名の書の創作を行う。 ・お互いの作品を鑑賞し、理解を深める。				
	2月						
	3月	○作品制作	・自らテーマを設定し、作品制作を行う。 ・お互いの作品を鑑賞し、理解を深める。				
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
内容	書の特質に即した見方・考え方を働かせて書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めている。また、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身につけている。		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、そのよさや美しさを感じ取り、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫している。また、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え書的美を味わい深く捉えている。		書の特質に即した見方・考え方を働かせて、内発的な動機に基づいて、多様な観点を持って主体的に書の表現や感想の創造的な活動に取り組もうとしている。		
評価の観点	・書を構成する様々な要素、表現形式、伝統と文化などの関わりについて深く理解している。 ・書を構成する要素、表現性を踏まえ、個性豊かに表現している。また、効果的に表現し、主体的に活用できる技能を身につけている。		・意図に応じて創造的に構想し、個性豊かに表現の工夫をしている。 ・書を分析的に捉え、その役割や効用・意味や価値について深く考えている。 ・書的美しさを感じ取り、感性を働かせて書を深く捉えている。		・主体的に創作活動に取り組み、書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。		
評価基準	A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		A：十分満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する		
	①授業への取り組み（出席状況、授業態度、活動への参加姿勢） ②授業作品の内容 ③ワークシートなどの記入・提出状況 ①～③の状況から総合的に判断して評価する。						
学習の手引き	1. 基本的な事項についての学習では、教科書を中心にその理解と把握に努める。 2. 表現の学習では、自ら積極的な姿勢で臨み、表現技法の習得に努める。 3. 鑑賞の学習では、作品を直観的かつ分析的に捉えるように心がけ、書美の追求に努める。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
外国語	英語 コミュⅡ	文系4 理系3	共通	一斉	2年	Heartening English Communication II (桐原書店)	英単語ターゲット1900 (旺文社)

目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。							
学習計画	学習時期	学習内容				学習のねらい		考查等
	4月	Lesson 1 Laughter without Borders				海外で狂言を広めているチェコ出身者のインタビューを読み、国際社会の発展に寄与する態度を養う。 未来を表す表現(未来進行形/be to do), 時制の一致		前期中間考查
	5月	Lesson 2 The Ongoing Voyages of Curry!				インドのカレーがどのように日本のカレーへと変貌したかについての説明文を読み、各国の伝統と文化を尊重する態度を養う。 未来完了形, 前置詞		
	6月	Lesson 3 The World's Most Bicycle-friendly City				コペンハーゲンがどのようにして世界有数の自転車都市となった過程についての説明文を読み、環境保全に寄与する態度を養う。 助動詞+have+過去分詞, 助動詞に関連する表現		
	7月	Lesson 4 Can You Feel Emotions in Text?				国や文化による顔文字の違いについての論証文を読む。幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。 さまざまな動名詞, 動名詞を使った表現		前期末考查
	8月	Lesson 5 Background Music and Sharks				サメの動画において、そのBGMが人に与える影響について述べた報告文を読み、環境の保全に寄与する態度を養う。 さまざまな不定詞, SVO+to do, 知覚(使役)動詞+O+動詞の原形		
	9月	Lesson 6 The Benefits of Play				遊びが成長にもたらす利点についての説明文を読み、個人の価値を尊重する態度を養う。 SV00の受動態, They say [believe] that ... などの受動態		10月実力考查
	10月	Lesson 7 Nursing in a War Zone				国境なき医師団の看護師の活動についての物語文を読み、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。 分詞構文, 付帯状況を表す(with+名詞+分詞)		後期中間考查
	11月	Lesson 8 Hawaii's Debate about a Sacred Mountain				神聖な山に最新の望遠鏡を設置すべきかについて、対立する2者の意見文を読み、異なる意見を理解する態度を養う。 比較に関する表現, 従属接続詞		1月実力考查
	12月	Lesson 9 The Next Wave in Artificial Intelligence				人工知能の最新技術やロボットとの共生についての説明文と意見文を読み、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。 関係代名詞と前置詞/関係副詞の非制限用法, 複合関係詞		
	1月	Lesson 10 What If There Were No Moon?				月が地球に及ぼしている影響についての説明文を読み、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う。 仮定法を使った表現, 無生物主語		学年末考查
	定期考查	出題方針	教科書から出題する。					
予定範囲		前期中間	Heartening English Communication II (L.1,2)					
		前期末	Heartening English Communication II (L.3,4,5)					
		後期中間	Heartening English Communication II (L.6,7)					
	学年末	Heartening English Communication II (L.8,9,10)						
実力考查	出題方針	約100点分は副教材や休日課題などから出題し、残り約100点分は応用問題を出題する。(200満点)						
	予定範囲	10月実力 基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題等 1月実力 基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題等						
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
目標	外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。		コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら、主体的, 自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。			
評価の観点及びその趣旨	・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を、聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。		コミュニケーションを行う目的や場面, 状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら、主体的, 自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。			
評価基準	定期考查, 単元テスト, パフォーマンステスト等		定期考查, 単元テスト, パフォーマンステスト等		パフォーマンステスト, 小テスト等			
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する							
学習の手引き	予習	新出単語・熟語の意味調べ, 重要構文や文法事項の確認, 本文の内容把握(和訳を含む)						
	授業	予習内容の確認, 音読練習, 重要構文や文法事項の確認, 本文読解						
	復習	授業での学習内容の確認, 語彙・構文等の定着, 音読練習						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
外国語	論理・表現Ⅱ	2	共通	一斉授業 及び 少人数授業	2	be English Logic and Expression II Smart (いづな書店)	英単語ターゲット1900 (旺文社)

目標 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

学習時期	学習内容	学習のねらい	考査等
4月	Lesson 1 Future Plans Lesson 2 Free Time at Home	・将来の夢について話す 時制 あいづちで関心を示す ・家で過ごす時間について話す 名詞句・名詞節 何かをしようと誘う	前期中間考査
5月	Lesson 3 Student Life Lesson 4 What You've Learned through Experience	・学校生活について話す 助動詞 話を切り出す ・体験から学んだことを話す 形容詞 感じたことを伝える	
6月	Lesson 5 Modern Conveniences Lesson 6 The Information Society	・現代社会の利便性について考える 形容詞句 理由をたずねる ・情報社会について考える 形容詞節 情報をたずねる	
7月	Lesson 7 Language and Thought	・ことばと思考について考える 副詞 共感を求める／共感を表す	前期末考査
8月	Lesson 8 Emotions and the Workings of the Mind	・感情と心の働きについて考える 副詞句 相手を励ます	
9月	Lesson 9 What Exactly Does Leadership mean? Lesson 10 Introducing Japan	・リーダーシップの意味を考える 副詞節 同情・共感をあらわす ・日本を紹介する 比較 提案する	10月実力考査
10月	Lesson 11 Making Innovation Happen	・イノベーションについて考える 仮定法 会話の間をとる	
11月	Lesson 12 Embracing Diversity in Society	・多様性を受け入れる社会を考える 接続詞 共感を表す	後期中間考査
12月	Lesson 13 Tourism and Japanese Society	・観光と日本社会を考える 「ある」「いる」「かかる」 感謝の気持ちを表す	
1月	Lesson 14 Food and Health	・食と健康について考える 使役動詞・知覚動詞 具合をたずねる	1月実力考査
2月	Lesson 15 SDGs and Issues Facing the World	・世界が抱える問題とSDGを考える 無生物主語 相手の意見に反応する	
3月			学年末考査

定期考査	出題方針	教科書から出題する。	
	予定範囲	前期中間	be English Logic and Expression II Smart (L.1,2,3,4)
		前期末	be English Logic and Expression II Smart (L.5,6,7,8)
		後期中間	be English Logic and Expression II Smart (L.9,10,11,12)
	学年末	be English Logic and Expression II Smart (L.13)	

実力考査	出題方針	約100点分は副教材や休日課題などから出題し、残り約100点分は応用問題を出題する。(200満点)	
	予定範囲	10月実力	基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題
		1月実力	基本文例600, 英単語ターゲット1900, 休日課題

観点別評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
評価の観点及びその趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価基準	定期考査、単元テスト、パフォーマンステスト等	定期考査、単元テスト、パフォーマンステスト等	パフォーマンステスト、小テスト等
	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する	A: 十分満足できる B: 概ね満足できる C: 努力を要する
学習の手引き	予習 新出単語・熟語の意味調べ、重要構文や文法事項の確認、本文の内容把握(和訳を含む) 授業 予習内容の確認、音読練習、重要構文や文法事項の確認、本文読解 復習 授業での学習内容の確認、語彙・構文等の定着、音読練習		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	履修年次	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
学校設定科目	探究Ⅱ	2	全	一斉	2	—	探究のトビラのプリント (鹿児島中央高等学校)

目標	「探究Ⅰ」で決定した課題研究のテーマに沿った研究を進める。その際、研究班内で協働して研究を進めるとともに、3年生や卒業生からの助言・指導を受け、大学や研究機関等と連携することでさらに探究活動を深める。						
学習計画	学習時期	学習内容			学習のねらい		考查等
	4～6月	研究計画書・予算書確認 ・研究班・担当者打ち合わせ ・研究活動開始			・各研究班で研究計画を確認し、年度のスケジュールを立てる。 ・研究班担当者と打ち合わせを行い、研究の進め方について指導・助言を受ける。 ・3学年の最終報告会に参加し、これからの研究活動に反映させる。		レポート提出
	7～9月	最終報告会参加 学年間交流会(1年) 中間報告会準備 ・課題研究の調査・実験 ・ポスター作成 学年間交流会(3年)			・1年生に探究のテーマ設定について助言する。 ・中間報告会に向け、ポスターを作成することにより、これまでの研究を振り返る。 ・学んできた発表の流れに沿って、中間報告会に臨む。 ・3年生から中間報告会に向けての助言を受ける。		ポスター提出
	10月	中間報告会 ・中間報告会振り返り ・課題研究継続 ・科学講演会			・中間報告会を通して、プレゼンテーションの実際を体験する。 ・中間報告会を振り返り、研究後半の取組に活かす。必要に応じて実験計画を修正する。		プレゼン発表
	11～2月	課題研究継続・発表会資料作成 ・課題研究継続 ・外部発表会への参加 科学論文講座、リケジョ講座への参加			・中間報告会で経験した事を研究に活かすため研究計画の検討を行い、研究を深める。 ・外部の発表会に参加するための資料作りを行う。		レポート提出
	3月	ループリック評価			・1年間の課題研究について振り返り、次年度の活動計画書を作成する。 ・ループリック表を用いて、自己評価を行う。		振り返り提出
定期考查	出題方針	実施せず					
実力考查	出題方針	実施せず					
観点別評価	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・「探究基礎」「探究Ⅰ」で実施した課題研究の研究を深めている。		・課題解決につながる情報を主体的に収集し、協働的な活動を進めつつ判断・表現・処理・創造する能力を身に付けている。		・グループ内での多様な考えを受容・共感し、まとめた内容を効果的に発信・伝達できる能力を身につけている。 ・3年生や卒業生からの助言・指導を受け、大学や研究機関等と連携することでさらに探究活動を深めている。		
	3つの観点についてそれぞれ次のA～Cで評価する		A 十分満足できる B 概ね満足できる C 努力を要する		① 授業への取組 ② ポスター・スライドの作成 ③ レポートの作成		* ①～③を総合的に判断する
学習の手引き	「探究Ⅰ」「探究基礎」で身に付けた知識や技術を使って「探究Ⅱ」を進めます。3年間の探究活動の中心となる期間ですので、積極的に参加する姿勢が重要です。研究の内容を深め、さまざまな発表会に参加します。他人任せにせず、自分の研究に対して理解を深めることが必要です。						